

## 憲法改悪ねらう憲法審査会規程の採決強行に強く抗議する（談話）

2009年6月12日

日本高等学校教職員組合

書記長 藤田 新一

昨日、自民・公明の与党は衆議院において、衆議院憲法審査会規程の採決を強行した。日高教は、国民の意思にも、議会制民主主義の原則にも反する暴挙に、断固抗議するものである。

憲法審査会規程の制定強行のねらいは、言うまでもなく、憲法9条の改悪により海外での戦争を可能にすることである。しかし、この間の各種の世論調査によれば、圧倒的多数の国民は憲法9条改悪に反対しており、憲法改定のために憲法審査会を始動することは望んでいない。

また、日高教が行なった「高校生1万人憲法意識調査」でも、「9条を変えない方がよい」が、この4年間で2割も増え、6割以上になっている。

今、国会がやるべきことは、憲法前文や9条を生かして国際平和に貢献するとともに、25条（生存権）を生かして貧困と格差を克服すること、26条を生かして子どもたちの学ぶ権利を保障すること、27条を生かして働くルールを確立することである。憲法を変えるのではなく、まさに憲法の諸原則を具体的に平和や国民の暮らし・福祉・教育に生かすことこそ、求められているのである。

与党による憲法審査会規程の強行制定によって、憲法改悪をめぐる状況は新たな段階に至った。

日高教は、国民共同の力で、当面する「海賊対処新法」などの9条を形骸化するたくらみに反対するとともに、憲法審査会の始動を許さないたたかいに全力をあげるものである。また、憲法改悪を許さない国民多数派を形成するために全力をあげるものである。

以上